

## 還暦の年に

## 高校生になれました



昭和46年第158回建築科卒業

三幸建設株式会社

代表取締役 宮尾 就策

## (1) 若かりしころ

36年前に建築科(昭和46年)を卒業し、設計事務所(意匠・構造)を経由して、大手ゼネコンや中小の現場でもまれ、20年前に上記の会社を設立しました。

若かりし頃の私は、安藤忠雄さんの「住吉の長屋」の作品集の打放しコンクリートのベニヤの目違いを見て、私の施工管理の方がうまいと直感(?)し、以後打放しコンクリートの「うまい会社」として建築営業を重ね今日に至っています。

## (2) 高齢社会に何を

還暦を迎えますと、世間では高齢者への仲間入りが視界に見えてきます。

私は高校生に戻りたいと思い一昨年NHK学園(2年間の通信)に入学し、介護福祉士をめざす事にしました。

年2回のスクーリングに出席して驚いたのは、全国は北海道から九州までの遠くから多くの老若男女の学生が集って来ていたことです。

私は全国にやる気のある人が多い事に感動した次第です。

私の青春気分にも火がつき、朝4時起床も習慣となり、社会福祉論・老人福祉論・人類学・医学一般・介護概論と勉強が進むにつれ、少しずつではあるが私に社会の変化の様子が理解できるようになってきました。

特別養護老人ホームでの10日間の介護実習、32時間の介護実技講習を終了し、残すはこの1月に国家試験に合格して介護福祉士になる事です。

## (3) 建築と介護事業

私の会社は介護保険の始まる5年程前から、新築工事のかたわらで中野区の委託業者となり、高齢者や障害者の家に手すりの取付や床材の変更等のバリアフリー工事の手伝いをしてきました。

介護保険が始まり、福祉用具貸与事業を併設し、福祉の住宅改修を本格的に始める事になりました。

従って当社の社員は福祉住環境コーディネーターや介護福祉士を建築士の傍らで勉強する事になります。

時代の流れは～産業の発展期があり～経済優先のバブル期があり～人類の減少～長寿～少子高齢化の現在へと推移しています。これからの建築技術者にはコンクリートの圧縮強度や鉄筋の引張強度の建築物を造る勉強も当然必要ですが、それ以上にその中で暮らすのに必要な文化人類学の歴史や家政学の基本の研究も大切と思います。

寝たきりの高齢者の方には褥瘡(床ずれ)の状況が有りますが、褥瘡のマットの研究に圧縮応力・引張応力・せん断応力等の建築と同じ構造力学用語が使用されている事も興味があります。

自然と人間の共存が大切なように、地域社会での人間同士の助け合いも又大切なことをNHK学園の授業で勉強しています。

社会は急ピッチで変化しています。

工学院で学ぶ諸君も、大きな視野で勉強に励んで下さい。

興味のある方は、当社の近くに来た時には、遠慮なく立寄って下さい。小さな建物です。